

今、私たちにできること。

突然襲ってくる災害。身を守るためには日ごろからの備えが重要です。今回の特集では災害が起きたときに町と地域、住民のそれぞれができることを考えます。
問い合わせ 地域づくり課

災害の恐ろしさを
忘れてはならない

台風7号と梅雨前線の影響により、西日本を中心に記録的な大雨となった「平成30年7月豪雨」。町内でも複数の場所で道路の冠水や土砂災害が発生したほか、一部の地域では避難勧告が発令され、多くの人が身の危険を感じる自然災害となりました。

自然災害は私たちの想像を超える力で被害をもたらします。普段から防災への意識を持ち、いざという時に命を守る行動がとれるよう心掛けることが重要です。

身近な危険に備えるために

災害への備えは、一人一人が取り組む「自助」、近所の人など地域で助け合う「共助」、避難所の開設など国や自治体が行う「公助」の3つに分けられます。

その中でも防災の基本となるのは「自助」です。災害が起こったときに最も重要なことは、自らの命を守る行動をとることです。日ごろから非常時の持ち出し品の確認や住まいの点検を行っておくなど、一人一人ができることから始めましょう。

▼平成30年7月豪雨は、町内でも広範囲にわたる被害をもたらした。



今、私たちに
できること。

▼ローリングストック法のイメージ



大災害が発生したときは国や自治体からの支援物資がすぐに届かないことがあります。ローリングストック法は、長期的に保存できる非常食（乾パンや缶詰など）を買い置きする以外にも、日ごろからできる備蓄方法の一つです。

【ローリングストック法】

- ① 常温で保管できる食材や加工品（米やカップラーメンなど）を買っておく
 - ② 日常生活の中で定期的に使用する
 - ③ 食べた分を買い足す
- この方法により、常に非常食となる食料を家に備蓄することができます。

【注意点】

- 古いものから使う
- 食べた分は必ず補充する

「ローリングストック法」でいつもの食事が非常食に

🔑 日ごろの備えが、あなたを守るカギになる 🗝️

非 常時の持ち出し品を確認しよう

- 水 ●食料品 ●貴重品（現金、通帳、印鑑、健康保険証など） ●救急用品 ●ヘルメット ●懐中電灯 ●雨具 ●軍手 ●衣類 ●毛布 ●タオル ●携帯ラジオ ●スマートフォンまたは携帯電話 ●充電器 ●常備薬 ●「でんたつくん」の戸別受信機 など

そのほか、赤ちゃんがいる家庭ではミルクや紙おむつ、母子手帳などがあります。必要に応じて準備してください。



▲非常時の持ち出し品の一例



▲雨どいに詰まった落ち葉などは、排水不良の原因になることがあります

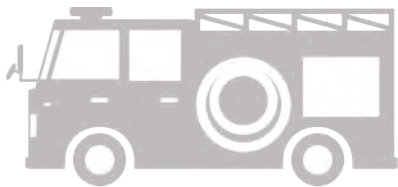
家 の周りを点検しよう

日ごろ生活している家の周りにも、危険が潜んでいることがあります。大雨や台風が発生したときに安全を確保できるよう、定期的に点検しましょう。

- 【屋根】 ひび割れやはがれはないか
 - 【雨どい・雨水ます】 落ち葉や土が詰まっていないか
 - 【塀】 ひびわれやぐらつきはないか
 - 【プロパンガス】 ガスボンベは固定されているか
 - 【その他】 飛ばされたり流されたりするものはないか
- また、大雨のときは家の出入り口に土のうを積むなど、浸水被害を防ぎましょう。



大切なまちを 守りたい——。



一緒に活動しませんか

求む！消防団員

岡垣町消防団では団員を随時募集しています。あなたの力を町の安全・安心に役立てませんか。

対象 町内に住んでいるまたは勤務している18歳以上の人

活動内容

【災害時】

- 消火活動、救助活動
- 避難誘導、車両誘導
- 町内の危険箇所巡回 など

【訓練や行事】

- 消防車庫での器具点検（毎月1日）
- 自治区の消火活動の指導
- 遠賀郡消防本部での基礎教育受講 など

問い合わせ 地域づくり課

消防団とは

災害が起こったときは、地域が一体となり危機を乗り越える「防災力」が必要です。消防団では団員のそれぞれが本業を持ちながら「自分たちのまちを自分たちで守る」という精神のもと、災害から町を守る地域の中心的な役割を担っています。

災害発生時には昼夜を問わず災害現場に駆けつけ、消火活動や救助活動を行います。平常時は地域の消火訓練などに参加して消火器や消火栓の使い方を指導しているほか、器具の点検や研修を通して、知識と技術を磨いています。

■ Interview

信頼関係の強さが まちの「防災力」です

消火活動や救助活動を行うためには、消防団員同士のチームワークが不可欠です。消防団に所属している団員の年齢や職業、経験年数はそれぞれ違うため、日ごろからより良い信頼関係を築くことを心掛けています。

また、消防団は地域の皆さんから信頼される存在でなければなりません。いざというときには地域が一体

となって対応できる防災力が必要になります。災害が発生した時に地域の人が危険な状況になっていないか、地域に危険な場所はないかなど細かい点に気付くためにも、消防団の活動を通して、地域の皆さんとのつながりを大切にしながら町の安全を守っていきたいです。



松本 哲夫さん
(岡垣町消防団団長)

今、私たちに
できること。

皆さんの安全な 暮らしをサポート。

町内全戸に設置している「でんたつくん」の戸別受信機。いざというときに重要な情報を確実に受け取れるよう、使い方を確認しておきましょう。

■音量調節つまみ
音量調節のほか、左に回すと電源を切ることができます。

■校区・自治区ボタン
自治区や校区コミュニティが放送したものの録音を再生します。

■役場ボタン
役場が放送したものの録音を再生します。

■機能選択ボタン
【通常時】
次の順に表示が変更されます。
①時計表示あり、FM放送なし
②時計表示なし、FM放送なし
③FM放送周波数表示、FM放送あり
④時計表示あり、FM放送あり
【録音を再生しているとき】
録音の再生を停止します。
【FM放送を聞いているとき】
ボタンを押しながら役場ボタンまたは 校区・自治区ボタンを押すとFM周波数を変更できます。

皆さんを守る伝達手段

役場が発信する災害時の情報は屋外の防災無線やスマートフォン・携帯電話をはじめ、「でんたつくん」の戸別受信機からも流れます。

ここでは、戸別受信機の便利な機能と注意点を紹介します。

【録音機能があります】

戸別受信機は放送内容を自動で録音しています。放送を聞き逃したときや内容を再度確認したいときは、役場または校区・自治区ボタンを押すと再生できます。なお、複数の放送が録音されているときは、新しいものから順に再生されます。

【電池は定期的に交換を】

電池がなくなると、本体の正面右上にある電池ランプが赤く点灯します。急な停電時などにも使用できるよう、年に1回程度電池交換を行ってください。また、長期間の停電に備え、予備の電池を準備しておきましょう。※電池はアルカリ単2電池2本またはアルカリ単3電池2本を使用

【コンセントにつなぎましょう】

コンセントを抜いたときや停電したときは、戸別受信機が電池で動きます。電池は約1日で消耗する(単2アルカリ電池2本を使用した場合)ため、普段はコンセントにつないでおいってください。

Check! 矢矧川の浸水想定区域 が見直されました

近年増加している大雨や短時間強雨の発生に伴い、最大クラスの洪水を想定した浸水想定が発表されました。見直し後の内容は5月末までに県のホームページで公表される予定です。

災害に備えた訓練をしています

町では年に1回、大規模災害に備えて防災訓練を行っています。この訓練では災害対策本部を立ち上げて、災害情報の共有や連携方法を確認するほか、昨年発生した「平成30年7月豪雨」の状況などを参考に具体的な災害を想定した実践的な訓練を行っています。

